

# 箱庭の国

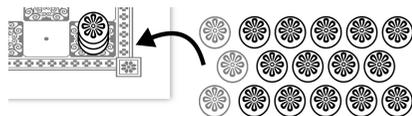
The Reclamation

【2人用ボードゲーム 10～20分】

誰もいなくなった庭園の新しい支配者  
それは魔法にかけられた花たちです  
魔術を操る大輪の花<「庭師」>の力で  
この庭の主の座を手にしましょう



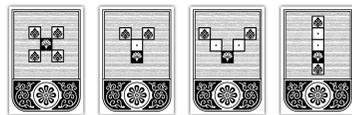
ゲームを始める前に、プレイヤーは先攻後攻を決めます。先攻のプレイヤーは「華」の陣営、後攻のプレイヤーは「蔓」の陣営につきます。陣営が決まったら、各プレイヤー 17 個の石を手元に置き、自分の陣営の模様を表にします。(余りはよけておきます。) そののち、両プレイヤーとも手元の石を 3 個重ね、ボード上の自分から見て右手前のマスに置きます。



このゲームでは、ボード上に 3 個重ねて置かれた石のことを「庭師」と呼びます。



また、プレイヤーは自分の陣営の模様の描かれた「開拓カード」(以下「カード」)すべて(4枚)を、手元に並べます。手元のカードは、陣営の模様以外は両プレイヤーとも同じ内容となります。カードは、黒の印刷面を表にし、陣営の模様が手前に来るように置いてください。



これで準備は終わりです。ゲームを始めましょう。

## ◆ ゲーム全体の流れ

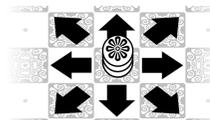
ゲームは、先手側からプレイヤー同士が交互に手番を行うことで進行します。手番プレイヤーの石が 12 個以上のマスに置かれた時、そのプレイヤーの勝利でゲームは終了します。また、手番プレイヤーが手番の処理を完遂できない状況に陥った場合、そのプレイヤーの敗北でゲームは終了します。

## ◆ 手番の流れ

手番プレイヤーは、自分の「庭師」に「移動」、「開拓」の2つの行動を、順番に実行させます。

### 「庭師」の行動 1: 「移動」

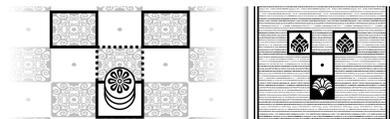
「庭師」を、上下左右及び斜め方向に隣り合う空きマスに移動させます。この時、3つ重ねられた石をまとめて動かします。



※ 「庭師」の周りに空きマスがない場合、この行動は実行できず、その手番でゲームに敗北します。

### 「庭師」の行動 2: 「開拓」

手番プレイヤーが「開拓」を行うと、ボード上に自分の石を置き、同時に相手の石を取ることがができます。まずは、「開拓」に使用するカードを選びます。カードに書かれた図は、手番プレイヤーの「庭師」と、今回「開拓」を行うマスとの相対的な位置関係を表しています。



図中の「模様のある黒いマス」は、自分の「庭師」のいるマスを、「模様のある白いマス」は、「開拓」を行うマスを意味します。(点の打たれた白いマスは、マス同士の間隔を表すための目印です。) たとえば上図のカードを使うと、自分の「庭師」から見て「前方に 2 マス、左に 1 マス」離れたところにあるマスと、「前方に 2 マス、右に 1 マス」離れたところにあるマスの 2 つのマスを対象とした「開拓」が行われます。

カードを使用する意思表示をしたら(カードを引き下げる、脇によけるなどして、カードが使用済みとなったことを示しましょう)、「開拓」の対象となる全てのマスについて、次のように処理します。

1. 自分の石が 1 つ置かれているすべてのマスに、自分の手元の石を 1 つずつ重ねて置いていきます。このとき、すでに自分の石が 2 つ置かれているマスには何もし

ません。(つまり盤面上に、はじめから存在する「庭師」を除いて、石が 3 つ以上重ねて置かれることはありません。)

2. 次にすべての空きマスに、同様に自分の石を 1 つずつ置いていきます。
3. 最後に、相手の石が置かれているすべてのマスから、一番上の 1 つを取り除いていき、それらを自分の手元に置きます。(相手の石が 1 つだけ置かれていたら、そこは空きマスになります。2 つ重ねられていたら、下の 1 つが残ります。) このとき、相手の「庭師」から石を取ってはいけません。手元に置いた石は、自分の陣営の模様を表にします。(相手の石から自分の石に変わります。)

上の手順の 1、2 番について、手元に石がたりなければ、処理の対象となるマスの中から任意に選んで置いていきます。手元に石が一つもなければ、これらの手順は飛ばします。

※ これらすべての処理を経たうえでなお、盤面になにも影響を及ぼさないような「開拓」は、実行することができません。実行できる「開拓」が存在しない場合、その手番でゲームに敗北します。

.....  
「開拓」の例 1) あなたの「庭師」は、下図のような状況下で、図中のカードを使用し、「開拓」を行いました。



すると、盤面は次のように変化します。



はじめの図を見てください。「開拓」が始まったら、まず、あなたの石が置かれたマスを探します。「庭師」の右上のマスにあなたの石がありますので、そこにあなたの手元の石を重ねて置きます。次に、空きマスを探します。「庭師」の右下に空きマスがありますので、同様に石を置きます。

## 内容物

- 石 36 個
- ボード 1 枚
- 「開拓カード」 8 枚 (プレイヤーあたり 4 枚)
- 取扱説明書 (日・英) 1 枚づつ

## このゲームについて

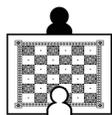
『箱庭の国』(The Reclamation) は、カードと石を操り、盤上の小さな世界で指導者としての力を比べあうボードゲームです。まずは基本となる遊び方(「庭園」ルール)について説明します。そのあと発展ルール(「玉座」ルール)について説明します。

## ◇ 1 基本ルール 「庭園」

基本ルールでは、プレイヤーは盤面上に自らのテリトリーを作ることを目指します。

## ◆ 準備

プレイヤーは、ボードを挟んで向かい合います。

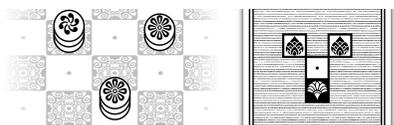


最初に石を用意します。石には、両面に異なる模様(「華」、「蔓」)が刻まれています。これらはこのゲームにおける陣営を表しています。

その次に、相手の石が置かれたマスを探します。「庭師」の左上に相手の石が置かれていますので、これを取ってひっくり返し、手元に置きましょう。「庭師」の左下にも相手の石があります。こちらは2つ重ねられていますので、上の1つだけを取ります。

これで「開拓」は終わりです。

「開拓」の例2) 「庭師」周辺の状況と、使用するカードを示します。



まず、あなたの石が置かれたマスを探します。右上のマスにあなたの石がありますが、すでに2つ重ねて置かれています。

よって、このマスには石を置けません。

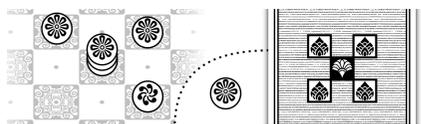
「開拓」を行う範囲内に、空きマスはありませんので、次に相手の石が置かれたマスを探します。

左上のマスに相手の「庭師」がいますが、「庭師」から石を取ることはできません。

結果、この「開拓」では盤面に何も変化を与えられませんでした。

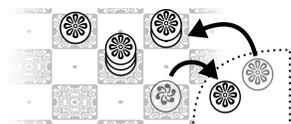
このような「開拓」は、実行することができません。

「開拓」の例3) あなたの手元には、いま石が1つしかありません。状況と使用カードは次のとおりです。



まず、あなたの石が置かれたマスを探します。右上と左上にあなたの石がありますので、そのどちらかに石を重ねて置きます。今回は、右上を選びました。その結果、手元から石がなくなります。次の手順に移ります。この時点で手元に石がないため、左下の空きマスに石を置くことができません。

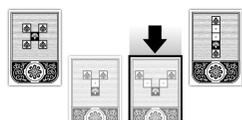
最後の手順です。右下の相手の石を取ります。これで、手元に1つ、石の備蓄が復活しました。



「開拓」の処理手順の規定から、手番で相手の石を取って、それをすぐに置くことはできませんので注意してください。取った相手の石は、次の手番から「開拓」に使用できます。

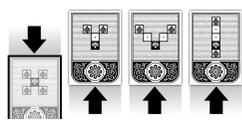
.....

なお、使用済みとなったカードは、次の手番から使用することができなくなります。つまり、使用できるカードの選択肢は、徐々に減っていくこととなります。



ただし、手元に残った最後のカードを使ったときに、その時点で使用済みとなっている3枚のカードは、すべてまた使えるようになります。

そのかわり、最後に使ったカードは使用済みとなります。



## ◆ 勝利条件

手番プレイヤーの石が置かれているマス（「庭師」のいるマスを含む）が12マス以上になったら、そのプレイヤーがゲームに勝利します。

## ◇ 2 発展ルール 「玉座」

バリエーションルール「玉座」では、この庭から相手の「庭師」を駆逐することを目指します。

このルールと「庭園」ルールとの大きな違いは、「開拓」によって、自分の石が2個重ねて置かれているマスにも石を置けること、加えて相手の「庭師」から石を取り除けることです。

このゲームでは、3つ重ねて置かれた石のことを「庭師」とみなしますので、ゲームの中で石が3つ重ねられたら、それは新しい「庭師」となり、逆に1つでも石を失った「庭師」は、「庭師」ではなくなります。

つまりこのルールでは、プレイヤーの保有する「庭師」の数が増減することになります。

以下に、基本ルールとの違いの詳細を示します。

## ◆ 《準備》

- 石は18個ずつ受け取ります。
- 「開拓カード」は赤の面を使います。

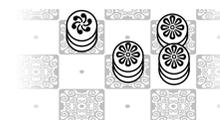
## ◆ 《手番の流れ》

手番プレイヤーが幾つかの「庭師」を保有している場合、この手番で行動させる「庭師」を、その中から1つだけ選び、「移動」と「開拓」を行わせます。

## 《「開拓」の処理》

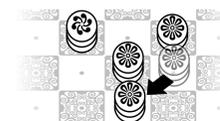
1. 手番プレイヤーは、はじめに自分の石が1個置かれたマスと、2個置かれたマスに石を置いていきます。
2. そののち、空きマスに自分の石を置いていきます。
3. さいごに、相手の「庭師」を含む、相手の石が置かれたマスから石を取っていきます。なお、相手の「庭師」から石を取った際、その石は相手の陣営の模様が表の状態のまま、自分の手元に置きます。この石を「開拓」に使うことはできません。

.....  
「玉座」ルールにおける手番の例) 下に、盤面の一部を示します。



あなたは今回、図中の右側の「庭師」に行動させることにしました。

まずは左下方向に移動させます。



つぎに「開拓」を行います。今回は下図のカードを使用します。



まず、自分の石が2つ置かれているマスが、「庭師」の右上に見つかりましたので、そこに石を置きます。これであなたの「庭師」は3つに増えました。（前方に空きマスがありますので、そこにも石を置きます。）

また、左上に相手の「庭師」がいますので、そこから石を1つ取ります。これで相手の「庭師」は1つ減りました。

取った石は、そのまま手元に置きましょう。



## ◆ 《勝利条件》

相手の「庭師」が全てなくなった時、手番プレイヤーはゲームに勝利します。また、手番プレイヤーの手元に相手の「庭師」から取った石が3個置かれた場合も、手番プレイヤーの勝利となります。

## ◇ 3 全体の細則

- 盤面に何の影響も与えないように「開拓」を行うことはできませんが、石を置くだけの「開拓」や、石を取るだけの「開拓」は行っても構いません。
- 「開拓」の範囲がボードからはみ出している場合、はみ出した分を単純に無視して処理を進めます。

『箱庭の国 第3版』ゲームマーケット2018春（公開）

空理計画 2018 はくし

createblankdevelop@gmail.com

http://kuuri.net